

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 回 相模原農業振興地域整備計画検討委員会				
事務局 (担当課)		農政課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 3 (直通)				
開催日時		平成 2 9 年 1 0 月 6 日 (金) 9 時 3 0 分 ~ 1 1 時 3 0 分				
開催場所		相模原市役所本庁舎 第 2 別館 3 階 第 3 委員会室				
出席者	委員	1 1 人 (別紙のとおり)				
	その他	1 人 (副市長)				
	事務局	1 1 人 (環境経済局長ほか)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 相模原農業振興地域整備計画検討委員会規則について 3 委員長・副委員長選出 4 諮問 5 議題 (1) 相模原市審議会等公開基準について (2) 農業振興地域制度及び農業振興地域整備計画の概要について (3) 農業振興地域整備計画の改定に係るスケジュール(案)について (4) 相模原市とその農業の概要について (5) さがみはら都市農業振興ビジョン 2 0 2 5 について 6 その他 7 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

事務局の進行により開会し、委員名簿順に自己紹介された。

2 相模原農業振興地域整備計画検討委員会規則について

事務局から本検討委員会設置の趣旨や、第5条第2項により委員長及び副委員長を互選により選任する規定等について説明を行った。

3 委員長・副委員長選出

互選により、委員長に明治大学農学部教授の竹本田持委員、副委員長に相模原市農業委員会委員の菱山喜章委員を選出し、竹本委員長と菱山副委員長からそれぞれあいさつをしていただいた。

4 諮問

相模原農業振興地域整備計画の改定に関する事項について、市長の代理として、副市長より委員長へ諮問書を手渡した。

5 議題

竹本委員長により議題が進行された。

(1) 相模原市審議会等公開基準について

事務局から相模原市審議会等公開基準について説明を行った。今後、この公開基準に従って検討委員会を運営していくことについて了承を得た。

なお、傍聴者がいなかったため、続けて議題(2)へ進行した。

(2) 農業振興地域制度及び農業振興地域整備計画の概要について

(3) 農業振興地域整備計画の改定に係るスケジュール(案)について

(2)(3)は続けて説明を行った。

資料 で農地面積の数値が示されたが、市街化区域の農地面積はいくらか。

市街化区域の農地のうち、生産緑地地区の面積については平成28年度時点で128ヘクタール(ha)となっている。

相模原市の農用地区域に指定されている農用地等の面積はどのように推移しているか。

直近では、圏央道や津久井広域道路の整備に伴う数haの減があったが、農用地区域に指定されている農地については原則的に転用が認められないものとなっているため、概ね変動はない。

農用地域に指定された農地とは、いわゆる“青地”と呼ばれているものか。
そのとおりである。

(4) 相模原市とその農業の概要について

(5) さがみはら都市農業振興ビジョン2025について

(4)(5)は続けて説明を行った。

資料 の農家の年齢層について人口ピラミッドの10年間変わらないか。

10年前の資料は持ち合わせていないが、5年前の統計において、70代以上の割合が全体の5割程度であることについては変わりないが今回よりやや低かった。50代から60代については今回より少し高かった。20代から40代については今回と概ね変わらなかった。

このことから、5年の間に、50代から60代については70代以上への移動があった、またそれに加えて、50代から60代については参入があったと分析している。

全体の傾向はどの地域に行っても概ね同じという印象があり、また、日本全体を見たときに大学を卒業してすぐ就農するというケースは少ないように思う。例えば工業経験のあるような50代や60代が参入の中心であるとすれば、その経験を6次産業化に活かした参入ということも考えられ、資料にあるように、20代～40代を増やす政策のみで良いのか、検討の余地がある。

新規就農については大きく二つのトレンドがあるものと感じており、一つは40代～60代が親からの世代交代で就農するケースでこちらが40代以上の大半かと思う。もう一つは30代の非農家からの参入がある。市としては両方が参入しやすい仕組みづくりが必要と考えている。

年齢層ごとの人数を折れ線グラフにした場合、高齢化により折れ線の山が5年ごとに右に動く想定されるが、農林業センサス2015では初めて左に動いた。一方、80代では折れ線の山が少し低くなり、離農したものと考えられる。このような全国の状況が、相模原市にも当てはまるかどうか、個別の状況を把握することも必要である。

また、農村の地域社会の維持を考えたときには、数少ない若年層には農業だけでなく、消防団など地域の活動が集中し、耐え切れなくなる可能性もある。こういう問題も同時に存在していることを考慮する必要がある。

資料 にある販売農家の所得は売上か費用を差し引いたものか。

資料上は所得と記載したが、正しくは農産物販売額であり、費用を差し引く前の売上であると把握している。

6 その他

事務局から資料 をもとに次回開催に関する事務連絡を行った。

- ・次回開催予定日 平成30年1月26日(金)午前9時頃から
- ・次回開催内容 農用地区域等の現地視察

なお、開催時間等の詳細は、後日改めて通知すると説明した。

7 閉会

第1回 相模原農業振興地域整備計画検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安西 雄次	畜種農家		出席
2	飯島 泰裕	青山学院大学社会情報学部 教授		出席
3	江藤 啓子	公募委員		出席
4	小林 康史	相模原市農業委員会 委員		出席
5	佐藤 はつ子	あぐりレディース		出席
6	竹本 田持	明治大学農学部 教授	委員長	出席
7	坪井 茂治	望地河原開田事業組合 組合長		出席
8	菱山 喜章	相模原市農業委員会 委員	副委員長	出席
9	山野 和重	津久井郡農業協同組合 専務理事		出席
10	山本 弘志	相模原市農業協同組合 常務理事		出席
11	吉見 敦司	農事組合法人 つ組		出席
12	若生 ひとみ	公募委員		欠席